

## 第4学年国語科学習指導案

公開授業Ⅰ 4年1組

公開授業Ⅱ 4年2組

児童 4年1組 野 17名 好 21名 計 38名  
4年2組 野 16名 好 21名 計 37名  
指導者 4年1組 高橋 規  
4年2組 菊池 文孝

**1 単元名** 中心人物の心情の変化を読み取り、内容と感想を伝え合おう

**学習材名** 中心学習材 「三つのお願い」(光村図書4年)

補助学習材 「～きっと見つかるきみの一冊～

いわての中高生のためのおすすめ図書100選」

(「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」選考委員会)

児童の選書した本

ブックトラックの本(指導者が予め選んだ本)

## 2 児童と単元について

### (1) 児童について

今年度、本学年の児童は、文学的文章の学習において主に次の3つの読みの方法を学習した。付けたい力「全体構造を把握する」(読むことウ)については「設定をとらえる(時、場所、登場人物、中心人物)」という方法、「場面の移り変わりを叙述と結びつけて読む」(読むことウ)については「登場人物の行動や会話文、心情描写を基にして読む」という方法、「登場人物の人物像を叙述を基にして読む」(読むことウ)については、「人物像を、行動、会話、心情描写を基にして読む」という方法である。言語活動としては、「人柄紹介カード」を作り3年生に紹介したり、登場人物の気持ちを想像して「吹き出し」を書き学級の友達と交流したり、同じ作者の作品を読み「キャッチコピー」を書いて作品の特徴を伝え合ったりする活動を経験している。

4月に実施したNRT検査から、主語、述語に着目して読むこと、場面の移り変わりに着目して登場人物の行動、会話を区別して読むことについての指導が必要であるということが明らかになった。また、国語学習についてのアンケートや学習の様子から文学的文章の読解にかなりの苦手意識、抵抗感を示している児童が見られた。しかし、1学期間、主語、述語に着目して登場人物の会話、行動を区別しながら人柄を読んだり、気持ちを想像したりする学習を経て、読みの方法を活用して読むことができるようになってきている。読みの方法を活用することへの意識が高まってきたことに伴い、文学的文章を楽しみながら進んで読む姿が見られるようになってきた。読みの方法を繰り返し活用させつつ、既習の読みの方法が新たに、「登場人物の人柄を叙述を基にして読む力」や「叙述を基に想像して読む力」の習得につながることを自覚させたことにより、変容が見られてきている。「人柄を表す言葉集」「感想の語彙集」、国語辞典の活用にとっても意欲的であり、今後更に、それらの活用を促す指導をし、語彙を増やしていくことを目指したい。

読書についての課題としては、科学の読み物、図鑑類に偏って読む傾向が見られる。また、図書室に通う回数にかなりの個人差が見られる。しかし、文学的文章単元で、同じ作者のシリーズ本や同じ題材の本を並行読書させる環境作りに努めたところ、没頭して次々と読み進め、中心学習材と比べながら読んだり、読後の感想を語ったりする姿が多く見られた。本単元では、各自が紹介する本を選書すること、パンフレット「西小4年生によるおすすめ物語〇選」を作成する活動を通して、本を紹介する楽しさ、

友達が紹介した本を読む楽しさ、自分が紹介した本を友達に読んでもらう楽しさを味わう経験を通して、読書の幅を広げていきたい。

## (2) 単元と学習材について

本単元「中心人物の心情の変化を読み取り、内容と感想を伝え合おう」では、学習指導要領・読むこと指導事項ウに関する「場面の移り変わりを叙述と結びつけて読む力」、読むこと指導事項カに関する「目的に応じていろいろな物語を読む力」を付けるために、作品についてのパンフレットを書き、同じ学年の友達や黒沢尻東小学校4年生に物語の内容や自分の感想を紹介するという言語活動を行う。

中心学習材「三つのお願い」は、中心人物である「わたし＝ゼノビア（ノービー）」の視点で書かれている。一人称視点で書かれ、全文が会話文のような書きぶりになっていることから、作品の中に自然に引き込まれ、共感的に読み進めていくことができる物語である。お願いをキーワードに、出来事がとらえやすいのも特徴である。「わたし」が登場人物との係わりを通して表す行動、会話から、中心人物の心情の変化や様子を想像しながら読むことができる。

## (3) 単元指導計画の工夫について

### ア 付けたい力と読みの方法

【付けたい力】 ○読みの方法

#### 【場面の移り変わりを叙述と結びつけて読む力】

- 設定、出来事をとらえる。
  - ・時 ・場所 ・登場人物 ・中心人物 ・出来事
- 場面を比べて、中心人物の心情の変化を読む。
  - ・行動描写 ・会話 ・心情描写

見通す段階では、補助学習材の例文を分析する活動を通して、パンフレットの内容紹介文を書く際の要素となる設定（時、場所、登場人物、中心人物）、出来事（何が起こったか）、結末（どうなったか、どう変わったか）について読み進めていくことの必要性をとらえさせる。そうすることにより、読みの視点、読みの方法を自覚しながら、学習材の読み取りをしていくことが言語活動に生きてくると考える。その上で、深める段階、広める段階において、まず、これまで活用してきた「設定（時、場所、登場人物、中心人物）をとらえる読みの方法」「登場人物の行動、会話、心情描写を基にして読む方法」を活用して読み取らせる。次に、本単元での新たな「中心人物の心情の変化を場面を比べて読む方法」を習得することへと段階を踏んで取り組ませる。結末とはじめの中心人物の心情を比べ、変化をとらえさせ、次に、中心人物の心情の変化に大きく関わっている出来事を読み取らせる。こうすることにより、「中心人物の心情の変化を中心に場面の移り変わりを叙述と結びつけて読む力」を付けることをねらう。このようにして読み取った設定、出来事、結末の中心人物の心情はパンフレットの内容紹介文に位置付く。場面の移り変わりを叙述と結びつけて読むことにより、心がひかれたところを物語の部分としてではなく、場面の移り変わりの中でとらえられ、感想を書きまとめる活動にもつながるよう指導する。

#### 【目的に応じていろいろな読み物を読む力】

- 中心学習材に関連する本の紹介をする。
  - ・中心人物の心情の変化

見通す段階では、広める段階に各自がパンフレットで紹介する本の選定についての見通しをもたせる。単元名とパンフレットの内容紹介の例文から中心人物の心情の変化を読み取ることができる物語であることをとらえさせ、目的をもって読書活動に取り組みさせることをねらう。さらに、既習学習材のパンフレットの例文を提示して分析することにより、心情の変化とその変化に関わる出来事等を書く視点となることを理解させる学習を通して、選定する際の具体的なイメージをもたせられるであろうと考える。

また、紹介したい本を選ぶための読書が、広める段階でのパンフレット作りに生かせるよう読書カードを用意し、記録させる。そのカードの項目は、日付、題名、作者名、訳者名、結末、変化に関わる出来事とする。

## イ 言語活動

「紹介したい本を取り上げて説明すること」

様式：パンフレット（物語の内容・感想紹介）

「～きっと見つかるきみの一冊～黒西小4年生によるおすすめの本〇選」

字数：300字程度（内容紹介文…200字程度、感想紹介文…100字程度）

要素：書名、作者名、訳者名、出版社、  
内容の紹介（設定、出来事、変化）、  
感想の紹介（心がひかれたところ）

目的：中心人物の心情が変化する本の内容と感想をまとめ、読者が読みたくなるように紹介する。

相手：本校4年生の友達・黒沢尻東小学校4年生の皆さん

広める段階で、各自が選書した物語を読み、学んだことを生かして内容の紹介、感想を書く活動を行う。パンフレットで紹介する作品は、各自が選んだ物語の本とする。見通す段階の学習やブックトラックの本を基にイメージをもたせながら、中心人物の心情の変化が表れている物語を選書させる。それぞれが書いた物語の内容紹介、感想は、「～きっと見つかる君の一冊～西小4年生によるおすすめの本〇選（西〇）」パンフレットにまとめる。第6時（2組本時）で表現の工夫をする場を設定することにより、物語の出来事、結末をとらえながら読むこととパンフレットの読み手を意識することを再確認し、よりよい表現を目指させる。おすすめの本を紹介する、パンフレットを基に友達のすすめる本を読む、紹介した本を読んでもらうという読書の楽しみを味わわせ、読書生活の広がりをおねらう。

## ウ 見通す場と振り返りの場

まず、単元を見通す段階で、黒沢尻東小学校4年生の先生の手紙を紹介する。この手紙をきっかけにし、多くの人にたくさんの本を紹介する方法として、パンフレットという様式が適していることを知らせる。次に、パンフレット「～きっと見つかるきみの一冊～いわての中高生のためのおすすめ図書100選」を提示し、まだ作られていない小学生のためのパンフレットを自分たちで作る黒沢尻東小学校4年生に本を紹介するというので、意欲を喚起させる。その際、これまでの読書経験を想起させ、物語を読む時には、設定に関することを読み取り、どんなことが起こりそうか（出来事）、どうなるか（結末、変化）を予想しながら読んでいることを交流させる。この交流の活動を通して、おすすめの本の選書の観点を定め、単元名を「中心人物の心情の変化を読み取り、内容と感想を伝え合おう」とする。その後、指導者が作成したパンフレットのモデルを分析することを通して、要素と視点をとらえさせる。その上で単元の学習計画を示し、それぞれの段階における学習活動のねらいやつながりを意識しながら各時間の学習に取り組めるようにする。さらに本単元では、既習の読みの方法を活用しながら、新たに中心人

物の心情の変化について場面を比べて読む方法を習得することで、読みの方法の定着と広がりを目指すことを知らせる。

学習の振り返りの場を広める段階とまとめる段階に設定する。広める段階では、自分が書いたパンフレットの文章を見直させるため、添書を書かせる。添書を基に、指導者が児童の実態を見取るとともに、対話することにより言葉や表現の吟味をする活動に意欲をもたせることは、よりよい表現を目指す児童の育成にもつながると考える。まとめる段階では、単元全体を通して学習したことを文章に書く形で振り返りの活動を行わせる。その観点は、中心人物の心情の変化を場面を比べて読む方法について、パンフレットを書いたことについて、友達のパンフレットの文章について、パンフレットを基に読書したことについての4つとする。まとめる段階における振り返りの場は、学習したことを自覚させ、次の活用へとつなげていくことをねらって行う。

### 3 単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	○紹介するという目的に応じて、いろいろな物語を読み、内容や感想を他者に伝えようとするができる。	・紹介するという目的に応じて、中心人物の心情の変化を読み、内容や感想を他者に伝えようとしている。
読むこと	◎叙述を基に、場面の移り変わりを読み取ることができる。 ◎目的に応じて読み、本を紹介し合ったり、本を交換して読んだりすることができる。	・行動描写、会話、心情描写、出来事を基に、中心人物の心情の変化を読み取っている。 <ウ> ・物語の内容、感想を紹介したり、読み手を引きつけるよりよい表現を目指したり、進んで物語を読んだりしている。 <カ>
言語についての 知識・理解・技能	○表現したり理解したりするために必要な語句を増し、使い方の範囲を広げることができる。	・表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を使って調べ、パンフレット作りに生かしている。 <言語イ(カ)>

### 4 単元の指導計画と評価規準(全12時間)

段階	時間	学習活動	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解	補助学習材
見 通 す	1	単元名、パンフレット、読み聞かせ、モデル文、学習計画を基に、学習の見通しをもつ。	目的と相手を意識し、学習の進め方に興味をもっている。 (観察、シート)			パンフレット 「へきつと見つかる君の一冊〜いわての中高生のためのおすすめ図書100選」

	2	内容紹介の例文を分析し、本単元で目指す内容紹介文の要素、視点を理解する。		物語の内容を伝えるための紹介文を、設定、出来事、結末の3段落で書くことを理解している。 (発言、シート)		
深める	3	「3つのお願い」の音読、難語句調べをする。設定をとらえる。 (時、場所、登場人物、中心人物) 場面毎に小見出しを付ける。	紹介文の要素を既習の読みの方法を活用しながら読み、進んでモデル学習をしている。 (観察、シート)	設定をとらえている。各場面の出来事をとらえ小見出しをつけている。 (発言、シート)	物語を理解するために必要な語句について辞書を利用して調べている。 (観察)	
	4	中心人物の叙述を基に読み、結末と出来事を読み取る。		行動、会話、心情描写を基に結末の中心人物の心情と出来事を読み取っている。 (発言、シート)		
	5	中心人物の心情の変化をとらえる。		結末とはじめの中心人物の心情の変化をとらえ、既習の読みの方法を活用した、新たな読みの方法について理解している。 (シート)		
	6	表現の工夫について学習し、内容紹介文を書く。 発表し合い、相互評価をする。		物語や読み手を意識するという視点をもって、出来事、結末のどちらを明確にしないかを考えて、パンフレットの内容紹介文を書いている。 (発言・シート)		
	7	感想紹介文を書く。		とらえた物語の内容を基にしながら、心がひかれるところをその根拠となる部分を引用して表している。 (シート)		

広 め る	8 9	<p>叙述を基に読み、中心人物の心情の変化をとらえる。</p> <p>表現の工夫を加えてパンフレットに掲載する紹介文をまとめ、添書を書く。</p> <p>感想紹介文を書く。</p>	<p>モデル学習を基に、読み手におすすめの本を紹介するために進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>(観察、シート)</p>	<p>中心人物の行動、会話、心情描写、出来事を基に場面を比べて読み、心情の変化を読み取っている。</p> <p>(シート)</p> <p>中心学習材の学習を生かして、読み取ったことを基に読み手を引きつける内容紹介文の表現の工夫をしている。(シート)</p> <p>とらえた物語の内容を基にしながら、心がひかれるところをその根拠となる部分を引用して表している。(シート)</p>	<p>パンフレットに表す語句について辞書を利用して調べている。(観察)</p>	<p>各自選書した本 ブックトラックの本</p>
	10	<p>推敲をし、パンフレットに掲載する紹介文を清書する。</p>		<p>よりよい表現を目指して、言葉や表現を吟味している。</p> <p>(パンフレットのシート)</p>		
	11	<p>パンフレットを読み自分が読みたい本を選んで読書し、感想を書いて書き手に返す。</p>		<p>パンフレットの紹介文についての感想(視点の取り上げ方、表現の工夫、心がひかれるところ)をもっている。(カード)</p>		
ま と め る	12	<p>単元を振り返り、活用した読みの方法が物語を読む上で、有効な読みの方法であることや学習の感想についてまとめる。</p>	<p>読みの方法の有用性やパンフレットにまとめることの良さ、読書の楽しさ(紹介すること、本を読んでもらうこと、紹介された本を読むこと)等について進んで振り返っている。</p> <p>(シート)</p>	<p>既習の読みの方法を活用して、中心人物の変化を読む新たな読みの方法について学習したこと、パンフレットを作った感想について書いている。(シート)</p>		

5 本時の指導(2/12)

(1)本時の目標

物語の内容を伝えるための紹介文を書く視点が時、場所、登場人物、中心人物、行動、会話、心情描写であること、設定、出来事、結末の3段落で書くことを理解することができる。

(2)本時の評価の観点と具体的評価規準

観点	具体的評価規準		
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への手立て
読む能力	<p>Bに加えて 出来事は登場人物の行動・会話・心情描写、結末は中心人物の行動・会話・心情描写を視点にすることや、書く視点が読みの視点にもなることを書くことができる。</p> <p>例) ・書く視点は時・場所・登場人物・中心人物・行動・会話・心情描写である。 ・設定・行動・会話・心情描写は、書く視点にも読む視点にもなる。</p>	<p>物語の内容を伝えるための紹介文を、設定、出来事、結末の3段落で書くことを理解することができる。</p> <p>例) 内容紹介文の3つの段落には、設定、出来事(あったこと)、結末(どうなったか)を書く。</p>	<p>板書を基に振り返ったり、補助的な言葉が書いてある学習シートでまとめさせたりする。</p>

(3)展開

段階	学習活動	教師の支援
	○発問 ・期待する児童の反応	学習内容 ◎評価 ・留意事項
見 通 す	1 単元のねらいを確認するとともに、前時の想起をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元名、学習計画表を基に単元を通した相手意識、目的意識を確認する。</li> </ul>
	2 本時の学習課題を確認する。	
7分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     内容紹介文の3つの段落に書くことを見つけよう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時はパンフレットの内容紹介文、感想紹介文のうちの内容紹介文に着目することを確認する。</li> <li>・モデルの内容紹介文に何が書かれているかが分かれば物語をどんな読みの視点で読み進め</li> </ul>

		<p>ていけば良いかが分かり、深める段階、広める段階の活動に見通しをもって取り組めることも伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習の流れを説明し、まとめの書き出しを知らせる。</li> </ul>
<p>深め る 28 分</p>	<p>3 紹介文を讀みの視点で分析する。  (1) 例文アを全体で分析する。  ○内容紹介文にはどんなことが書かれていますか。  ・設定の時、場所、登場人物、中心人物  ・登場人物の行動、会話、心情描写  ・中心人物の行動、会話、心情描写</p> <p>(2) (1) の活動を基にしながら、例文イ・ウについて分析する。  ①各自、視点に沿って分析する。</p> <p>4 考えを交流する。  (1) グループ毎に分析したことを交流し合う。</p> <p>(2) 全体で交流する。  ○どの言葉、文が、どんな視点で書かれているでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介文の例文3例（ア・イ・ウ）を配布し、段落番号を付けた後、音読させる。3段落それぞれのまとまりを意識しながら内容紹介文を書くことにつなげていくためである。</li> <li>・既習学習材をもとに作成した内容紹介文を提示する。その際、中心人物の心情が変化している物語であることにふれ、選書をする際の観点を確認する。</li> <li>・児童の挙手が少ない場合は、例文の言葉を取り上げ、国語学習コーナーに掲示してある学習用語を手がかりにさせる。</li> <li>・児童の発言をもとに、設定についての叙述は囲むこと、中心人物と登場人物の行動、会話、心情描写については線種を変えてサイドラインをすることを確認する。交流する際、例文アイウの各段落の共通性を視覚的にとらえやすいようにするためである。</li> <li>・全体での分析の場面、一人学び、グループでの交流のそれぞれの活動において、一つの叙述について、児童のとらえた視点が違っていたり、区別が付けにくかったりすることが予想される。一つにまとめることに固執せず、幅を持たせたい。視点を手がかりにとらえられれば、物語の読み取りをする際も、内容紹介文を書く際も、讀みの視点を意識しながら学習できると考える。</li> <li>・グループ学習、全体交流の活動は、視点を更に意識化させること、着目点の違いや良さに気付く場にするをねらって行わせる。</li> <li>・児童の発言をもとに、例文に記入する。設定についての叙述は囲み、中心人物と登場人物</li> </ul>

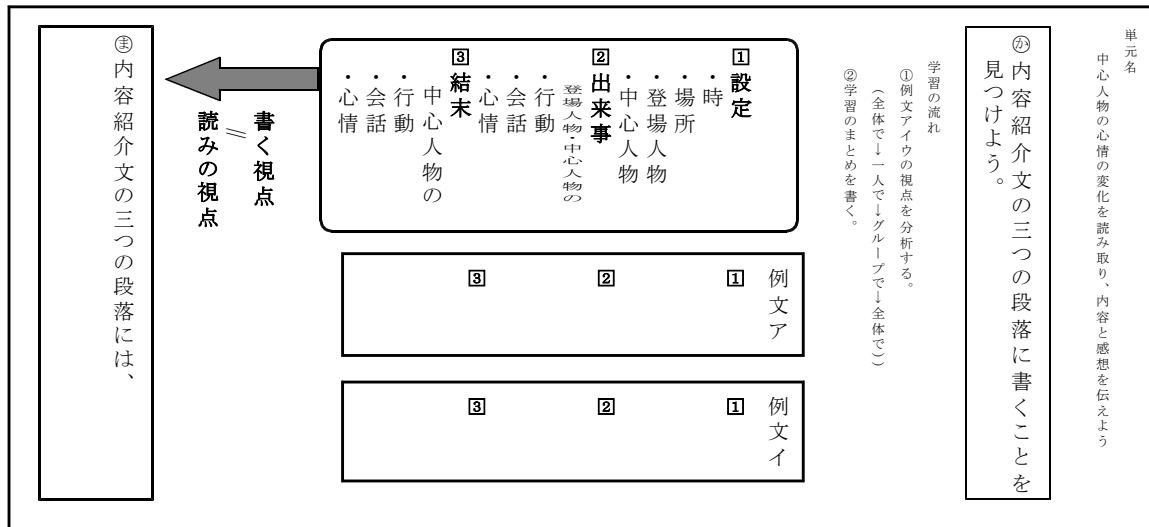


	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時、場所、登場人物、中心人物</li> <li>・行動、会話、心情描写</li> </ul> <p>○例文アとイの同じ段落を比べて、共通点はありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1段落目に、場所、登場人物、中心人物が書かれている。</li> <li>・2段落目に、登場人物と中心人物の行動、会話、心情描写が書かれている。</li> <li>・3段落目に、中心人物の行動、会話、心情描写が書かれている。</li> </ul> <p>○1段落目で、設定が紹介されています。2段落目、3段落目には、何が紹介されているでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2段落目は、何が起こったか（出来事）</li> <li>・3段落目は、最後どうなったか（結末）</li> </ul>	<p>の行動、会話、心情描写については線種を変えてサイドラインをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例文アイウの1段落、2段落、3段落どうしを比べて視点の共通点に着目させる。その際、一人学び、ペア学習で記入した囲みやサイドラインを手がかりとさせる。</li> <li>・2段落には、中心人物の心情の変化に関する登場人物の行動、会話、心情描写、3段落には、中心人物の心情の変化が書かれていることをおさえる。このことは、他の物語の出来事、結末を読む際の視点になる。</li> <li>・単元名を基に、結末には中心人物がどうなったか、つまり中心人物の心情の変化を読み取り書くことをとらえさせる。</li> <li>・結末という学習用語については、初出であることから、指導者が教える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>設定は、時、場所、登場人物、中心人物で表されること。結末は、中心人物の行動、会話、心情の変化を読み取って書くこと。出来事は、中心人物を変化させた登場人物とのかかわりを読み取って書くこと。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめにつながるよう板書する。</li> </ul>
<p>ま と め る</p> <p>10 分</p>	<p>6 今日の学習で分かったことをまとめる。</p> <p>(1) 板書で振り返る。</p> <p>(2) まとめる。</p> <p>①自分の考えをまとめる。</p> <p>②全体でまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題、例文、板書を基に、内容紹介文は3つの要素を意識して書くこと、設定・行動・会話・心情描写が視点になることを振り返らせる。</li> <li>・内容紹介文を書く際の視点が、物語を読む際の読みの視点になることにふれる。</li> </ul> <p>◎内容紹介文の3つの段落には、設定、出来事（あったこと）、結末（どうなったか）を書くことをまとめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視しながら支援の必要な児童には、穴埋め式のシートにまとめさせる。</li> </ul>

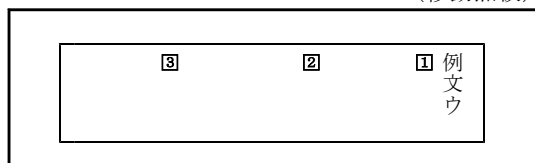
7 次時の学習を確かめる。

- ・パンフレットを作成するためのモデル学習を中心学習材「三つのお願い」でしていくことを学習計画で確かめる。
- ・本時とらえた視点で読み取り、それらがパンフレットの内容紹介文の書く視点になることを確認し、本時の学習が次時以降につながっていくことをおさえる。

#### (4) 板書計画



(移動黒板)



5 本時の指導（6／12）

（1）本時の目標

表現を工夫を通して、物語の出来事、結末をとらえながら読むことができる。

（2）本時の評価の観点と評価規準

評価規準 観点	A十分満足できる	Bおおむね満足できる	C努力を要する児童への 手立て
読む能力	<p>Bに加えて 叙述を基に自分で考えた 言葉も付け足して表現を 工夫している。</p> <p><b>例)前よりもピクターを大切に思 うようになったゼノビアが1セン ト玉をにぎりしめて心から願った 最後のお願いとは……。</b></p>	<p>物語や読み手を意識する という視点をもって、出 来事、結末のどちらを明 確にしないかを考えて、 パンフレットの内容紹介 文を書いている。</p> <p><b>例)1月1日に自分が生まれた 年にできた1セント玉を拾うと三 つのお願いがかなうといわれて いました。それをあまり信じてい ないゼノビアと親友のピクター、 ゼノビアのママが登場します。 ゼノビアは1月1日にその1セン ト玉を拾いますが一つ目と二つ 目のお願いはむだに使ってしま います。お願いのことで、ピク ターとけんかをして分かれた後、 ママから「この世で一番大切な ものは友達」という話を聞きます。 前よりもピクターを大切に思 うようになったゼノビアの最後 のお願いとは……。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこを明確にしないか を対話して決め、その部 分を考えさせる。</li> <li>グループでの交流をヒ ントにさせる。</li> </ul>

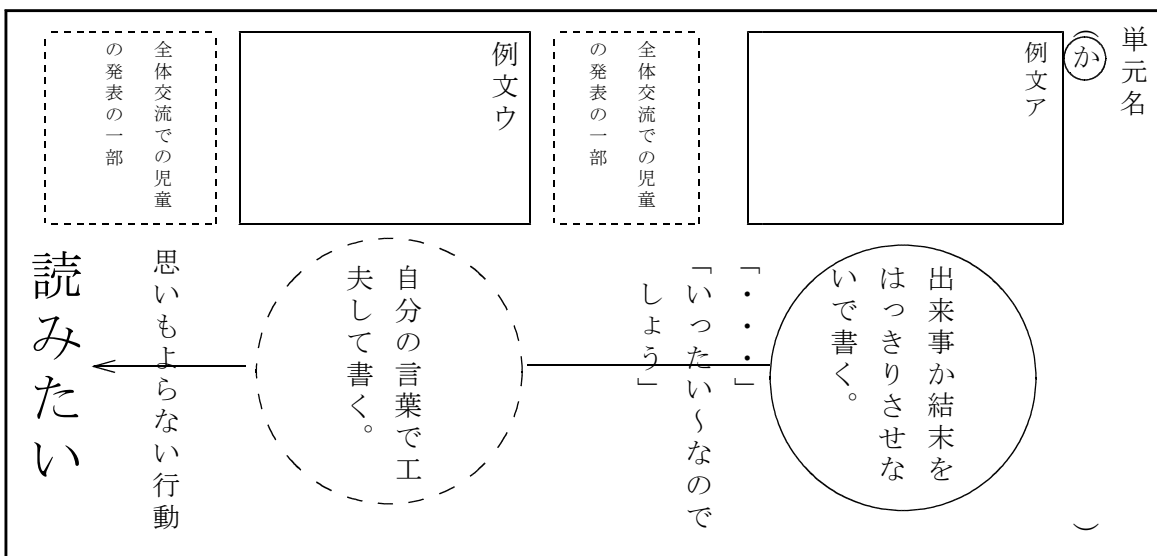
（3）展開

段階	学習活動 ○発問・期待する児童の反応	教師の支援 学習内容 ◎評価 ・留意事項
見 通 す	1 単元のねらいを確認するとともに、前時の 学習を想起する。	・前時で中心人物の心情の変化をとらえ、内 容紹介文に必要な設定、出来事、結末を読 み取っていることを確認する。
5 分	2 本時の学習課題を確認する。 表げんを工夫して読み手を引きつける 内容紹介文を書こう。	

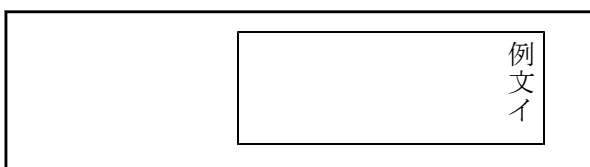
	<p>3 課題に対する視点を確認する。</p> <p>○伝える相手は誰でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒沢尻東小学校の4年生。</li> <li>・黒沢尻西小学校の4年生。</li> </ul> <p>○伝える目的は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介する本をおもしろそうだと思うため。</li> <li>・読んでみたいと思うため。など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝える相手や目的によって表現は変わってくることを押さえる。</li> </ul>
<p>深 め る  35 分</p>	<p>4 課題に対する自分の考えをもつ。</p> <p>(1) 表現の工夫について考える。</p> <p>○読み手を引きつける内容紹介文はアとイのどちらでしょう。どうしてそう思うか理由も言いましょ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アがいい。わからないところが気になって読み手が「読みたい。」と思うと思うから。</li> <li>・アがいい。イだと全部分かってしまって読む楽しみが無くなるから。</li> </ul> <p>○アとウでは、どちらがいいと思いますか。どうしてそう思うか理由も言いましょ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウがいい。本文に無い言葉を使っていて、分かりやすくなっている。</li> <li>・ウがいい。読み手に「読みたい。」と思わせるように書いている。</li> </ul> <p>(2) 表現を工夫してパンフレットの紹介文を書く。</p> <p>5 考えを交流する。</p> <p>(1) グループで交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例文アは補助学習材の結末を明確にしない紹介文、例文イは全てを明確にした紹介文とする。この二つを比較検討する活動を通してアのようなはっきり書かない部分を設けることを確認する。出来事と結末のどちらを書かなければ読み手を引きつけることができるか考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>物語の出来事、結末をとらえながら読み、パンフレットの内容紹介文の中に、はっきりさせない部分を設けること</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例文ウの叙述を基に自分で考えた言葉も付け足して表現を工夫したものを提示する。</li> <li>・叙述に無い言葉については、叙述のどこからその言葉を付け足したと思うか、付け足してもいい言葉だと思うか考えさせる。</li> <li>・叙述に無い言葉については、教師が提示した以外にないか考えさせる。出ない場合は、教師側から当てはまる言葉と当てはまらない言葉をいくつか提示して考えさせる。</li> <li>・一人学びに入る前に       <ol style="list-style-type: none"> <li>①出来事か結末をはっきりさせないで書くこと</li> <li>②できる人は「読みたい。」と思わせるために、叙述を基に自分なりの言葉を工夫して書いてもいいことを確認する。</li> </ol> </li> <li>・机間巡視をし、意図的な指名につなげるようにする。</li> <li>・グループ学習の意図は次の三つとする。       <ol style="list-style-type: none"> <li>①出来事、結末をとらえて表現の工夫ができていくかという視点で友達の内容紹介文を読むこと。</li> </ol> </li> </ul>

	<p>(2) 全体で交流する。</p> <p>6 内容紹介文を見直す。</p>	<p>②全員が自分の考えを1時間のうちに必ず1回は話す機会を確保すること。</p> <p>③書けないでいる児童が、友達の考えを参考にする場とすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意図的に指名し、その児童の紹介文について「どこをはっきりさせないで書いているか」、「はっきりさせない部分は、叙述に戻るとどんなことが入るか」を分析させる。</li> <li>・全体での交流を基に自分の内容紹介文を見直し、訂正する時間を設ける。一人学びで書けなかった児童はここで書くように指示する。</li> </ul> <p>◎物語や読み手を意識するという視点をもって、どこを明確にしないかを考えて、パンフレットの内容紹介文を書くことができたか。(シート)</p>
<p>ま と め る 5 分</p>	<p>7 本時の学習について振り返る。</p> <p>8 次時の学習について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を広める段階に生かすために、一人学びに入る前に確認した2点を意識して書くことができたかを振り返らせる。</li> <li>・次時は感想紹介文を書いてパンフレットを完成させることを告げる。</li> </ul>

(4) 板書計画



(移動黒板)



# 本単元の学習指導一覧表

**単元名**

中心人物の心情の変化を読み取り、内容と感想を伝え合おう

**中心学習材**

三つのお願い

**目標：叙述を基に、場面の移り変わりを読み取ることができる**

〈読むこと ウ〉

**目的に応じて読み、本を紹介し合ったり交換して読んだりすることができる。**

〈読むこと カ〉

段階	主な学習活動	主な評価	○読みの方法 ・補助学習材
見通す  単元全体のめあてをつかみ、学習計画を知る。	①単元名、パンフレット、読み聞かせ、モデル文、学習計画を基に、学習の見通しをもつ。	①目的と相手を意識し、学習の進め方に興味をもっている。 (関：観察、シート)	○ 心情の変化 ○ 設定 ○ 行動 ○ 会話 ○ 出来事 ・ パンフレット「～きっと見つかるきみの一冊～いわての中高生のためのおすすめ図書100選」
	②(1組本時)内容紹介の例文を分析し、本単元で目指す内容紹介文の要素、視点を理解する。	②物語の内容を伝える紹介文を、設定、出来事、結末の3段落で書くことを理解している。 (読：発言、シート)	
深める  目的に沿って中心学習材を読み取る。	③「三つのお願い」の音読、難語句調べをする。設定をとらえる。(時、場所、登場人物、中心人物)場面毎に小見出しを付ける。	③紹介文の要素を既習の読みの方法を活用しながら読み、進んでモデル学習をしている。 (関：観察、シート) 物語の設定をとらえている。各場面の出来事をとらえ小見出しをつけている。 (読：発言、シート) 物語を理解するために必要な語句について辞書を利用して調べている。 (言：観察)	○ 設定 ○ 行動 ○ 会話 ○ 心情の変化 ○ 出来事
	④中心人物の心情の変化をとらえる。	④結末とはじめの中心人物の心情の変化をとらえ、既習の読みの方法を活用した新たな読みの方法について理解している。 (読：発言、シート)	
	⑤登場人物の叙述を基に出来事を読み取る。	⑤登場人物の行動、会話、心情描写を基に出来事を読み取っている。場面を比べて、中心人物の心情に変化を与えた出来事を読み取っている。 (読：発言、シート)	
広める  学んだことを生かして読み取り、紹介文を書く。	⑥(2組本時)表現の工夫について学習し、内容紹介文を書く。発表し合い、相互評価をする。	⑥物語や読み手を意識するという視点をもって、出来事、結果のどちらを明確にしないかを考えて、パンフレットの内容紹介文を書いている。 (読：シート)	○ 設定 ○ 行動 ○ 会話 ○ 心情の変化 ○ 出来事  ・ 児童の選書した本、 ・ ブックトラックの本
	⑦感想紹介文を書く。	⑦とらえた物語の内容を基にしながら、心がひかれるところを、その根拠となる部分を引用して表している。 (読：発言、シート)	
	⑧⑨叙述を基に読み、中心人物の心情の変化を読み取る。表現の工夫を加えてパンフレットに掲載する内容紹介文をまとめ、添書を書く。感想紹介文を書く。	⑧⑨モデル学習を基に、読み手におすすめの本を紹介するために進んで学習に取り組んでいる。 (関：観察、シート) 場面を中心人物の行動、会話、心情描写を基に比べて読み、心情の変化を読み取っている。 「三つのお願い」の学習を生かして読み取ったことを基に読み手を引きつける内容紹介文の表現の工夫をしている。とらえた物語の内容を基にしながら、心がひかれるところを、その根拠となる部分を引用して表している。 (読：シート)	
まとめる  学習の振り返りをする。	⑩添書を書く。パンフレットに掲載する紹介文を清書する。	⑩よりよい表現を目指して、言葉や表現を吟味している。 (読：パンフレットのシート)	
	⑪パンフレットを読み、自分が読みたい本を選んで読書し、感想を書いて書き手に返す。	⑪パンフレットの紹介文についての感想(視点の取り上げ方、表現の工夫、心がひかれるところ)をもっている。 (読：カード)	
	⑫単元を振り返り、活用した読みの方法が物語を読む上で有効な読みの方法であることや学習の感想についてまとめる。	⑫読みの方法の有効性やパンフレットにまとめることの良さ、読書の楽しさ(紹介すること、本を読んでもらうこと、紹介された本を読むこと)等について、進んで振り返っている。 (関：シート) 既習の読みの方法を活用して、中心人物の変化を読む新たな読みの方法について学習したこと、パンフレットを作った感想について書いている。 (読：シート)	

**ゴールに据える言語活動**

【言語活動】紹介したい本を取り上げて紹介すること      【様式】パンフレット「～きっと見つかるきみの一冊～黒西小4年生によるおすすめの本〇選」  
 【言語能力】中心人物の心情の変化を読む。パンフレットで読者におすすめの本を紹介したり、本を読み合ったりする。  
 【要素】書名、作者名、訳者名、出版社、内容の紹介(設定、出来事、心情の変化)、感想の紹介